

ジム・ロジャーズ著「お金の流れで読む 日本と世界の未来 世界的投資家は予見する」PHP 新書、PHP 研究所 2019年1月29日刊を読む

移民を受け入れる国は栄え、拒む国は亡びる

—いかに社会への影響をコントロールするかを考えよ—

1. 移民受け入れか、貧乏か

- (1)時折、日本のインタビュアーから「長期的な時間軸から、アベノミクスへの評価を」と尋ねられることがある。けれども、「このままでは、日本に長期的な時間軸はない」と答えざるを得ない。ここまで人口が減少しているにもかかわらず、子どもを作ろうとしないのだから。日本政府は時には子どもを作るようにインセンティブを与えるが、いつもうまくいかない。そこに人手不足で賃金が上がっていく。老人が増え、社会保障費もどんどん膨れ上がる。だから、日本には長期的な時間軸はないと言うのだ。
- (2)ちなみに韓国も少子化問題を抱えているが、朝鮮半島が統一されたら、状況は好転するだろう。北から女性がたくさん南に入っていくし、安い労働力も入っていく。いつの日か日本を打ち負かさずだろう。
- (3)少子化問題に対抗するには、移民を受け入れなければならない。しかし日本人は外国人嫌いで、移民の受け入れにもあまり積極的ではない。日本には在日外国人に対する職業差別、入居差別、教育差別などがあると、国連も 2018 年に勧告している。このままだと生活水準が下がるばかりだが、日本人は外国人を受け入れるよりも生活水準の低下の方を選んだように私には見える。

2. 「移民受け入れは犯罪を増やす」のか

- (1)「移民受け入れは社会を不安定にする」という意見も、常に聞かれる。いまアメリカでも、そう言われている。でも実際蓋を開けてみると、外国人の犯罪者よりもアメリカ人の犯罪者の方が多い。確かに、アメリカに入ってくる外国人の中に犯罪者がいるのも事実だ。でも一度犯罪が明るみになった時、人々は「犯人を見よ、あいつは外国人だ」と言いはしても、「犯人はアメリカ人だ」とは言わない。外国人が罪を犯した時だけことさらに「外国人」であることを強調するので、外国人はみな犯罪者だという先入観を植え付けてしまうのだ。実際、犯罪者はどの民族にも一定数いるのに。
- (2)事実としては、移民として入ってくる人のほとんどは、勇気があるから自国を出てきているのだ。親戚や友人に囲まれ、母語が通じる居心地のいい自国を、荷物をまとめて離れる。そして知り合いなど誰もいない、言葉も通じないような国に渡っていくのは、決して簡単なことではない。勇気がなければ、クレイジーでなければできないことだ。
- (3)私だったら、そのような勇気ある人にはぜひ自分の国に来てほしい。自国を一生離れたくないという人はそれでいいが、私なら、何か新しいことをやってやろうという冒険心がある人に自国へ来てほしい。
- (4)移民は、はじめは異なる文化を持って入ってくるものだ。それでもやがては移民先の国に同化するのが普通である。時間がかかることもあるが、特に移民の子どもたちは、間違いなく同

化する。日本でもそうだ。在日韓国人は完璧な日本語を話し、なかには日本の名前を持っている人もいる。進学先も日本の学校に行く人がたくさんいる。

3. EUの轍を踏まないために

- (1) EU などでは、移民排斥の動きが起きている。それはあまりにも早く、多くの移民を受け入れすぎたことが要因かもしれない。
- (2) EU でも、確かに移民は必要なのだ。たとえばドイツは人口動態から見て大きな問題を抱えている——つまり日本と同じく少子高齢化が進んでいるので、メルケル独首相は「移民が欲しい」と明言している。ドイツの企業には労働者が足りない。それを埋めるには出生率を上げるか移民を受け入れるしかないのだが、たとえ出生率を上げたとしても、赤ん坊が大人になるまでには時間がかかる。だから移民を受け入れるのが手っ取り早いのだ。
- (3) 結果、メルケル首相が中東やアフリカ大陸からの難民に率先して門戸を開いた 2015 年以降、ドイツが受け入れた移民の数は 100 万人以上とも言われる。これは国民の約 1.2 パーセントにあたり、他の欧州諸国と比べても飛び抜けて高い数字だ。国民の 100 人に 1 人が突然外国人になってしまうという状況が、国民感情を逆なでしたとしても仕方ない。
- (4) 私が居を構えているシンガポールでも、あまりにも短期間に多くの移民を受け入れすぎだ。だからこの国は、これ以上移民を受け入れようとしない。2013 年に発表された人口白書には、「外国人労働者の受け入れを削減する」「永住権保持者は 50 万人程度に維持する」といった内容が含まれている。しかしこれからシンガポールは高齢者ばかりになって、社会保障として政府は彼らにたくさんの金を費やさなければならない。これは将来、大問題を引き起こす。

4. (1) こういう例を見て言えることは、**移民の受け入れ方をコントロールしなければいけない**ということだ。短期間でたくさん移民を受け入れすぎないように調整しなければならない。好むと好まざるとにかかわらず、日本が移民を必要としていることは明白な事実だ。うまくコントロールしながら、徐々に移民を増やしていくしかない。
- (2) **国を閉鎖して成功したという例を、私は知らない。まったくのゼロだ。**だから日本には、もっと外国人を好きになってほしいと思う。日本にはもっと外国人が必要だ。私は日本人ではないから、あなた方に生き方を教えることはできない。でも一つ言えるのは、私がいま 10 歳の日本人であれば、すぐにでも日本を離れるということだ。

P58 ~ 63

5. 教育ビジネスにも活路あり

- (1) 教育ビジネスの機会も増えるかもしれない。現在、生徒が足りずに廃校に追い込まれている学校がたくさんある。子どもが減っているので、学校も空になるということだ。
- (2) **日本に来たがる外国人学生は、たくさんいる。あるいは、積極的にたくさん受け入れるようにすればいいのだ。**すでに、外国人を積極的に受け入れる日本の大学も増えてきている。
- (3) 韓国や中国の子どもと話すとき、彼らは「大学に入学できない」と言う。大学の数が少ないので競争率が非常に高いためだ。私はそういう彼らに、「日本に行きなさい。日本の大学なら受け入れてくれる」とアドバイスしている。日本では「大学全入時代」と言われるくらい、大学の数が余っている。定員割れで生徒を欲しがっている大学はたくさんあるだろう。そういう大学こそ、留学生を受け入れるのだ。

- (4)外国人に来てもらうには、世界の共通語である英語で授業をしなければならないだろうが、いまは東京大学でもどこでも、英語で外国人に講義をしている大学が増えている。
- (5)介護産業にも未来があるとよく言われるが、日本が将来他の国と競争する時の助けにはならないだろう。あくまで、日本国内で高齢者が増え、高齢者を介護する産業が大きくなるというだけのことだ。増える高齢者を何とかしなければならないが、そうかと言って高齢者に多くのものを売りつけるビジネスがいいわけではない。

P69 ~ 70

<コメント>

日本の最大の理解者の一人である世界的投資家、ジム・ロジャーズ氏からの日本へのメッセージ。まずは、十分コントロールされた形での移民の受け入れを。安倍内閣は、この4月に人材開国を決定した。実質的には移民受け入れを決定したものだ。北朝鮮と韓国の統一を見据えると、一刻も早く現実のものとしなければならない。

2019年8月6日

林 明 夫